

救命救急センター救急外来で、現在取り組んでいることを紹介します。

救急外来には、一次から三次までの患者さんが来院します。特に独歩で来院する患者さんは、軽症者と重傷者が混在し、待合室で急変や症状が重篤化する可能性があります。そのような患者さんを来院順に診るのではなく、患者の重症度、緊急度を判断し優先順位をつけて、生命の危険な状況にある患者さんを早期に見つけ出すことが救急外来看護師の重要な役割といえます。今日では、施設ごとに基準を設けトリアージナースと呼ばれる看護師がその判断をおこなっています。迅速にかつ的確にトリアージを行うためには、専門的な知識・技術はもとより良好なコミュニケーションが取れる技術、臨機応変かつ強力なリーダーシップを持つことが必要となってきます。

本年、この救急外来トリアージが救急看護師のもっとも重要な業務と位置づけられ、院内トリアージ加算が小児救急患者に特化され設けられました。そして、このような情勢のなか、当救命救急センターにおいても、専門的なプログラムにおいてトリアージナースを育成することが必要であると考えトリアージナースの要請研修を院内ではじめました。

現在、推奨されている基準(CTAS-Canadian Triage Acuity Score)をもとに、独自のプログラムで2010年4月よりはじめています。

#### トリアージナースに期待される役割

- 1、簡単な問診と身体診察（含むバイタルサイン）から、適切なフィジカルアセスメントができること（緊急度・重症度判断）
- 2、成人、小児の二次救命処置（ICLS、PALS）、外傷標準プログラム（JPTEC・JATEC・JNTEC）が理解できていること
- 3、病状評価に基づいた適切な診療科の選択と診察場所の確保ができる
- 4、他職種との連携ができる
- 5、患者・家族と良好なコミュニケーションがとれる
- 6、臨機応変に対応できリーダーシップがとれる

#### トリアージナース選出基準

##### 【臨床経験・救急看護経験に関するもの】

臨床看護師経験 4 年目以上または近江八幡市立総合医療センター看護部ラダーレベルⅢ以上

救急外来看護経験 1 年以上または救急看護ラダーレベルⅡ以上

ICLS を受講したもの

（看護部長、看護長により承認を受けたもの）

## トリアージナース育成プログラム

### 成人トリアージプログラム

#### 救急医療・看護概論

##### 1、救急初療、トリアージの概念が理解できる

メディカルコントロール

救急患者の特徴

トリアージ看護師の役割と機能

当センターのトリアージガイドラインについて

トリアージ看護師の擁護について（オーバートリアージ・アンダートリアージ）

#### フィジカルアセスメント

##### 1、緊急度と重症度の判定ができる

生理学的判断（意識・気道・呼吸・循環・体温）

特徴的な症状と緊急度判断（頭痛・胸痛・腹痛・意識障害・呼吸障害・吐下血・ショック・感染症）

外傷（交通外傷・熱傷・打撲・骨折など） JPTEC・JATEC・JNTEC

##### 2、問診をとることができる

有効な問診の聞き方

## 小児トリアージプログラム

### 小児救急医療・看護概論

##### 1、小児トリアージの概念が理解できる

小児救急患者の特徴 親の特徴

小児トリアージ看護師の役割と機能

当センターのトリアージガイドラインについて

トリアージ看護師の擁護について（オーバートリアージ・アンダートリアージ）

#### フィジカルアセスメント

##### 1、緊急度・重症度判定ができる

小児に多い疾患とその特徴

症状による緊急度・重症度について

小児の二次救命処置（PALS）

虐待について

##### 1、問診をとることができる

有効な問診の聞き方

成人・小児に共通する技術

- 1、電話でのトリアージについて
- 2、リーダーシップ・コミュニケーション

研修プログラム（成人・小児計 11 回および症例提出）

- 1 回目 小児トリアージ事前テスト  
(5 月) 小児救急医療体制について  
小児トリアージについて  
緊急度・重症度評価（小児に多い疾患と特徴・症状による評価）
- 2 回目 小児二次救命処置  
(5 月)
- 3 回目 児童虐待トリアージ  
(6 月) トリアージナース擁護について
- 4 回目 症例検討 症例シミュレーション  
(6 月)
- 5 回目 小児事後テスト テスト後電話トリアージ・コミュニケーションスキル  
(7 月)
- 6 回目 成人トリアージ事前テスト  
(7 月) 救急医療体制について  
当センター成人トリアージガイドラインについて
- 7 回目 緊急度・重症度のついて  
(8 月) 生理学的評価について（A・B・C・D・E）
- 8 回目 特徴的な症状と緊急度判断  
(8 月) 頭痛・胸痛・腹痛・意識障害・呼吸障害・吐下血・ショック・感染症
- 9 回目  
(9 月) 外傷の標準ガイドラインについて（JPTEC・JATEC・JNTEC）

10回目 外傷の標準ガイドラインについて（JPTEC・JATEC・JNTEC）  
（9月）

11回目 成人事後テスト

（10月）テスト後、リーダーシップについて講義  
プログラム講義の受講後、10月より2月までの間に、臨床で10症例トリアージをおこない  
所定の用紙に記入し提出する

認定基準について

テスト・症例により総合的な評価をおこない、認定の可否を決定する